

## 匠瑤市脱炭素推進委員会 会議概要

日時 令和7年3月25日(火) 13時30分から15時30分まで

場所 市民ふれあいセンター2階 視聴覚室

出席者 脱炭素推進委員5名

岩船 由美子 委員

田中 信一郎 委員

太田 雅之 委員

若松 修 委員

佐藤 和 委員

事務局 ゼロカーボン推進課4名

(伊橋課長、齊藤統括、鎌形主査、鈴木主任主事)

特定非営利活動法人環境エネルギー政策研究所(ISEP)2名

(松原理事、岡村特任研究員)

次第 1 開会

2 市長挨拶

3 委嘱書交付

4 委員長及び副委員長の選出

5 議題

(1) 匠瑤市地球温暖化対策実行計画について

(2) 匠瑤市脱炭素先行地域計画について

6 その他

会議資料 資料1 匠瑤市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)

資料2 匠瑤市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)

## 1 開会

事務局から、本日の会議の進行について説明、会議の開始を宣言。

## 2 市長挨拶

宮内市長から挨拶。

## 3 委嘱書交付

匝瑳市脱炭素推進委員会条例第3条の規定により、市長から委員への委嘱が行われた。

## 4 委員長及び副委員長の選出

事務局から委員長に岩船委員、副委員長に田中委員が推薦され、それぞれ全会一致で選出された。

## 5 議題

### (1) 匝瑳市地球温暖化対策実行計画について

資料1及び資料2について事務局から説明した。

【質疑応答・意見】(○委員、●事務局)

○A委員： 新築住宅の省エネ化(ZEH)について、具体的な推進方法について質問。

●事務局： 具体的な取り組みは今後検討し、周知啓発や民間建築業者への説明会等を通じて推進していく。

○A委員： 新築住宅の省エネ化の重要性を指摘し、具体的な施策を検討するよう要望する。

○B委員： 既存住宅の省エネ化において、横芝光町では飛行機の騒音対策のための防音工事に補助金を交付しており、防音工事には断熱効果もあると聞くが、豊栄地区あたりでも出来るのではないか。さらに飯倉台地区の500戸の一戸建て住宅にまとめて太陽光を設置できるのではないか。

●事務局： 脱炭素先行地域は国の選定によるものであり、豊栄(飯倉)地区を選定した経緯を説明。飯倉台は対象外だが、将来的には市内全域での脱炭素化に取り組んでいく考えを示す。

○C委員： 産業部門としてリンテック社のような脱炭素化への取り組みを紹介して、みどり平工業団地の企業などに周知したらどうか

●事務局： リンテック社を取り上げた経緯を説明。

○D委員： 成田空港に関連する地域活性化の可能性について、リユースへの取り組みの重要性や民間の仕組みを使うことを提案。

○E委員： 排出削減の具体的な対策を住宅の件数や原単位など数値で示す必要があ

る。産業部門についても、リンテック社のような具体的な取り組みを横展開できる仕組みが必要。脱炭素だけではなく、地域活性化など地域課題とセットで取り組むことが必要。

- 事務局： 排出削減の施策の具体的な考え方について説明。計画には定性的な記載のみで、具体的な施策の数字については環境省の進捗管理ツールで積み上げている。家庭部門と業務部門については、脱炭素先行地域の事業を進め、産業部門は企業の自主的な取り組み。使用電力の排出係数は2030年に半減する数値を想定。人口減少の中で、地域活性化と地域課題の解決をしていきながら脱炭素化を進めることが重要。

## (2) 匝瑳市脱炭素先行地域計画について

脱炭素先行地域事業について事務局から説明。

### 【質疑応答・意見】(○委員、●事務局)

- D委員： 脱炭素化を周知するための市内のイベント活用を提案。さらに市役所に導入された電気自動車について土日の活用について提案。
- 事務局： 市内のイベントには今後も、参加していく。電気自動車の活用については、土日の活用は保険の関係などで難しいが、避難訓練などで電気自動車がどのように役立つのか体験できるようにしていく予定。
- C委員： 水田ソーラーシェアリングに関して、全国で何番目の取組か。収量の低下はどのように管理されるのか。
- 事務局： 4ヘクタールの規模の設備としては全国初になる。太陽光パネルの遮光率は30%程度になっており、これまでの畑の知見では問題はない。収量は農業委員会に毎年報告をすることになっている。
- A委員： 断熱改修のスキームについて質問。補助金はユーザーにどの程度出るのか。事業者のノウハウが重要であり、セミナーの開催や登録制度を提案。実際に断熱改修を行った事例を広めることが重要。
- 事務局： 断熱改修の補助要綱は策定済み。スキームについては検討中。市内の民間事業者向けの説明会を開催する予定。断熱改修の補助上限は120万円。全国規模の断熱改修のノウハウがある(株)カインズにも協力してもらう予定。
- B委員： 豊栄地区における騒音対策と断熱対策について要望。空港からの騒音対策として、横芝光町のように断熱効果のある防音対策を検討するよう要望。
- B委員： 飯倉台地区における省エネの導入について提案。500戸ほどの戸建て

が集まっている飯倉台地区に省エネ設備をまとめて導入できないか。

○E委員： 家庭用の高効率給湯器の仕様、補助金額について質問。高効率空調機器（エアコン）についての補助の考え方を質問。既築住宅への太陽光パネル設置の難しさについて質問。

●事務局： エコキュートを想定しており、LPガスや灯油の代替によりCO<sub>2</sub>排出量削減となる。補助率は3分の2で上限が60万円。エアコン等については、オンサイトPPAや再エネ100%電気への切り替えとの組み合わせで考えている。太陽光パネルの屋根への設置が難しい住宅については、駐車場への設置などを想定している。

○E委員： 水田ソーラーシェアリングの難しさ(畑との比較)について質問。

●事務局： 水田の場合は畑よりも架台の基礎杭を深く打ち込む必要があると想定され、現場での確認を踏まえて設計していく。事業者(匠瑛みらい)が検討中で、そのノウハウも横展開できると考えている。

○E委員： 脱炭素先行地域での系統連系の状況について質問。

●事務局： オフサイトPPAの水田ソーラーシェアリングについてはすでに連系協議も終わり工事負担金を支払う段階になっており、問題はない。オンサイトPPAについては、余剰電力の連系協議に時間がかかりかかる状況で、高圧施設では余剰売電無しで設置をして、必要に応じて後で連系協議を行う(一般家庭への余剰売電は問題ない)。

## 6 その他

脱炭素推進委員会は、基本的に年度末に1回実施するほか、必要により随時開催する。